

オープン カレッジ

大野 幸一氏

名古屋市立大学大学院
経済学研究科教授



問の「南北貿易」は、労働を多く使用する産業は途上国が輸出し、資本を多く使用する産業は先進国が輸出するとい

グローバル化と開発戦略

している。これは、国境を越える経済活動が容易になった

結果、先進国の企業が途上に工場・会社を移転して資金を投入する活動が盛んになっ

一昔前、企業は自国内で一番安く生産できる場所を選ん

途上国の経済発展を考えると、「南北問題」という言葉がよく使われてきた。貿易理論でも国際分業の構造について、資本が豊富な先進国(北)と労働豊富な途上国(南)の

おおの 二ついち 貿易論、開発経済学。筑波大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。1949年生まれ。

途上国は企業誘致へ整備急げ

産では、技術力が必要で、精密さを要求される工程は日本で行い、人手がたたく必要のない途上国で行うようになっ

ている。もし、賃金の高い日本国内で部品製造から組み立てまで行えば、国内の生産雇用は増加するが、生産コストが高くなり、国際的な価格競争力を失う危険がある。

このように多国籍企業の活動による「産業内貿易」・「工程間分業」の拡大は、貿易の自由化、国際的な投資や資金移動の自由化、国際的な情報・輸送網の整備など、いわゆるグローバル化の時代となっ

ては、技術力が必要で、精密さを要求される工程は日本で行い、人手がたたく必要のない途上国で行うようになっ

ている。もし、賃金の高い日本国内で部品製造から組み立てまで行えば、国内の生産雇用は増加するが、生産コストが高くなり、国際的な価格競争力を失う危険がある。

このように多国籍企業の活動による「産業内貿易」・「工程間分業」の拡大は、貿易の自由化、国際的な投資や資金移動の自由化、国際的な情報・輸送網の整備など、いわゆるグローバル化の時代となっ

ては、技術力が必要で、精密さを要求される工程は日本で行い、人手がたたく必要のない途上国で行うようになっ

ている。もし、賃金の高い日本国内で部品製造から組み立てまで行えば、国内の生産雇用は増加するが、生産コストが高くなり、国際的な価格競争力を失う危険がある。

このように多国籍企業の活動による「産業内貿易」・「工程間分業」の拡大は、貿易の自由化、国際的な投資や資金移動の自由化、国際的な情報・輸送網の整備など、いわゆるグローバル化の時代となっ

ては、技術力が必要で、精密さを要求される工程は日本で行い、人手がたたく必要のない途上国で行うようになっ

ている。もし、賃金の高い日本国内で部品製造から組み立てまで行えば、国内の生産雇用は増加するが、生産コストが高くなり、国際的な価格競争力を失う危険がある。

このように多国籍企業の活動による「産業内貿易」・「工程間分業」の拡大は、貿易の自由化、国際的な投資や資金移動の自由化、国際的な情報・輸送網の整備など、いわゆるグローバル化の時代となっ

ては、技術力が必要で、精密さを要求される工程は日本で行い、人手がたたく必要のない途上国で行うようになっ

ている。もし、賃金の高い日本国内で部品製造から組み立てまで行えば、国内の生産雇用は増加するが、生産コストが高くなり、国際的な価格競争力を失う危険がある。

